No.7　乳児用ベッドからの転落

事　例		年齢：11 か月　　性：男
傷害の種類		転落
原因対象物		乳児用ベッド
臨床診断名		打撲（前額部）
発生状況	発生場所	自宅の和室. 和室に乳児用ベッドが置かれていた（写真 1 参照）．下は畳.
	周囲の人・状況	本児は乳児用ベッドで寝ており，母親は台所で洗い物をしていた．急に泣き声がしたので，和室に行ってみるとベッドの中にいたはずの子どもが和室の畳の上に倒れて泣いていた.
	発生時刻	6 月 9 日，午前 9 時 15 分頃
	発生時の詳しい様子と経緯	本児の体重は 9kg，身長は 73cm．発達段階は伝い歩きができる状態で，抱っこすると上に上ろう上ろうとする. ベッドは，畳面から柵の上部まで 85cm の高さがあり，ベッドの柵と柵の隙間は 7.8cm であった．ベッド内の布団から足がかりとなる横桟までの高さは 11.5cm，足がかりから柵上部までの高さは 35cm であった（写真 2 参照）. ベッドの中には，薄い毛布以外，足がかりとなるようなものはない．子どもを発見した時，ベッドの柵は外れていなかったので，覗き込んで転落したと確認できた.
治療経過と予後		嘔吐はなかったが，心配となり同日の午前 12 時に受診した．左前額に打撲によるとみられる内出血斑を認めた．意識状態は正常，手足の動きや口腔内に異常はなく，経過観察とした．すぐに軽快した.

【こどもの生活環境改善委員会からのコメント】

1. 乳幼児の転落は非常に多い.
2. 母親が家事をしているあいだ, 子どもの安全を確保する目的で乳幼児用ベッドが使用されることが多い.
3. この事例の月齢では，50cm 未満の高さから覗き込めば，頭が重いため転落する.
4. 育児用品は，足がかかる位置からの高さが 50cm 以上となる構造にしないと転落が発生する．この事例では, 柵の横棒をベッドの平面と同じ高さか, 平面以下に設置して, 柵の上部までの距離を 50cm 以上確保する必要がある.
5. 多数の年齢別の転落の発生状況を収集し, 乳幼児の転落のメカニズムを知識化, 一般化する必要がある.

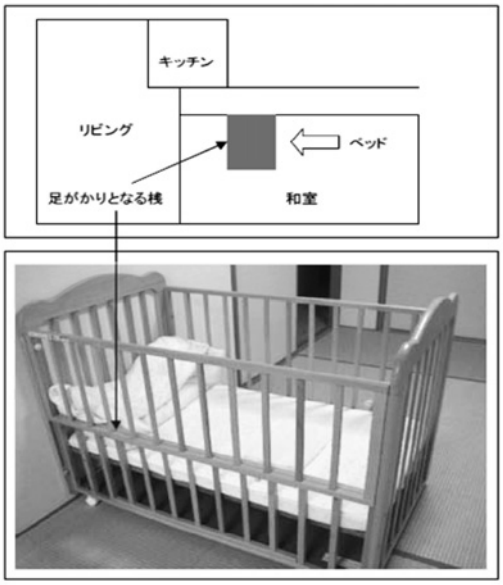

写真 1

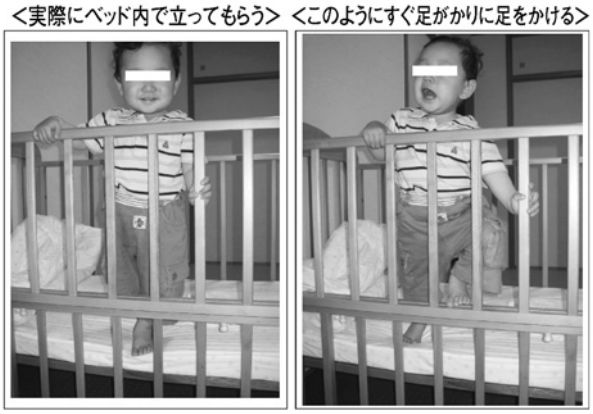

写真 2